



木もれびの森の草花 森の夏の光景(ヤマユリ・オカトラノオ)

『ヤマユリ』皆さんよくご存じのヤマユリ(山百合)は夏の森を彩る代表的な花です、ユリ科・ユリ属の球根植物(球根は食用になる)で、花粉が衣類に付くとなかなか落ちにくいといわれています。

2016年、2017年には300本以上の株が花を咲かせていました。最近では花数も少なくなり森も寂しくなりました。代わってウバユリが多くなったような気がします。日本特産のヤマユリは、北陸地方を除き近畿地方から東北地方にかけて里山を彩る代表的な花です。ヤマユリは発芽から開花まで5年以上かかるといわれています。ヤマユリは『ユリの王様』と呼ばれ神奈川県の花に指定されています。背丈は1~1.5mくらいで、花は大きく20cm位になり一株に1~10個くらい咲かせ重みで茎が折れんばかりに咲いています、高速道路の斜面に沢山の花を咲かせているのをよく見かけます。日当たりが良いせいか株が古いほど沢山の花をつけるそうです。



ヤマユリ



オカトラノオ

『オカトラノオ』(サクラソウ科)は昔A地区の植生地の日影に沢山ありました。草丈が小さく花が咲かないので日の当たる所に移植すれば咲くのでは思い移植したところ、草姿も立派になり花もたくさん咲かせました。山の代表的な花だと思います、これからも丈夫に育てて欲しいと思います。(田崎)

木もれびの森の薬用植物 (14)

スイカズラ (スイカズラ科スイカズラ属)

日本原産の山野の日当たりのよいところに生えるつる性の植物で、和名「吸い葛」は、花を口に加えて蜜を吸う事に由来するという説があり、漢名の「忍冬」はシノブのように他の木の上を這い、冬になっても落葉しないことに由来します。葉と茎は生薬「忍冬(ニンドウ)」の材料で、解毒、抗炎症



作用があり、顔や頭の湿疹に用いられる漢方処方「治頭瘡一方(ぢずそういっぽう)」に配合されています。

5-6月に咲く花は、生薬「金銀花」として用いられ、2個ずつ対になって咲く花が、最初は白く、2-3日すると黄色に変化することに由来します。金銀花は清熱解熱薬で「銀翹散(ぎんぎょうさん)」という中医学の処方に配合されています。葛根湯は後漢時代の「傷寒論」に記載されている処方、寒気のする風邪の引き始めに用いられ、発汗させて熱を下げる体力のある人向けの漢方処方です。一方、銀翹散は飽食の清の時代に編み出された処方、寒気のしない風邪の引き始めに用いられます。飽食、生活不摂生の現代日本では風邪には銀翹散の方がふさわしい場合が多いですが、これは保険適用外で、ドラッグストアで買えます。(川村)